

『Flamenco2030』主催「第1回フラメンコWebフェスティバル」閉幕!

# 2030年への第一歩!

第1回フラメンコWebフェスティバルが7月4日、無事閉幕。この春のコロナ禍にフラメンコの灯をともしつづ  
けようと新しい挑戦をされたすべての方に敬意を表します。そして入賞された方、おめでとうございます!

今月はその速報とともにフェスティバルの挑戦と道程をレポートします。(パセオフラメンコ編集部)

## 入賞者発表!!

(敬称略)

### 【総合評価】

{最優秀賞} (No.8) 荒濱早絵 / Se nos rompió el amor desde 茅ヶ崎

{優秀賞} (No.4) 永田健 / Let It Be

{優秀賞} (No.5) 久保田晴菜 / La leyenda del tiempo ~セビージャの風の中で舞う~

{優秀賞} (No.35) 池川寿一 / Pasa la vida on Ukulele

{入賞} (No.26) 森川拓哉 / 上をむいて歩こうピアノブレリアver.

{入賞} (No.27) タマラ / リリース ~ピアノフラメンコに乗せて~

{入賞} (No.31) 島袋紀子 / お散歩グワヒーラ

{入賞} (No.32) 林由美子 / flamenco

{入賞} (No.41) 幸田愛子 / プロのフラメンコダンサーになりたい!

### 【エンタメ賞 同率1位3名】

(No.2) Kinta Suzuki / ブレリアデヘレスを逆さまにして弾いてみた。

(No.35) 池川寿一 / Pasa la vida on Ukulele

(No.38) 本田恵美 / フラメンコ都市伝説「キルケー」 ~ Leyenda urbana flamenca 'Circe'

### 【スポンサー賞(全14社)】

★青山Toro賞 / 青山Toro無料招待券

(No.22) 川崎晃子 / Piñata de Cantiñas

★アコースティック賞 / CD

(No.9) 今井龍一 / Sevillanas en instrumentos árabes

★エスアイイー賞 / ギター弦

(No.37) 後藤晃 / 自作のTango(Tango de Azul)

★エスペランサ賞 / カサ・デ・エスペランサ出演権

(No.22) 川崎晃子 / Piñata de Cantiñas

★エンリケ坂井賞 / CD

(No.42) 山田あかり / トナ・イ・ブレリア・デ・ヘレス

★大和田いづみ賞 / (自動的に)最優秀賞受賞者の肖像画

(No.8) 荒濱早絵 / Se nos rompió el amor desde 茅ヶ崎

★カサアルティスタ賞 / カサアルティスタ無料招待券

(No.1) 徳村真未 / 酒じゃ祭りじゃ

★JPカルロス賞 / CD

(No.26) 森川拓哉 / ピアノでフラメンコ~上をむいて歩こう

★ソニアジョーンズ賞 / 練習用スカート

(No.41) 幸田愛子 / プロのフラメンコダンサーになりたい!

★ナジャハウス賞 / ナジャハウス商品券(30,000円分)

(No.19) 内田好美 / 未来を紡ぐ

★月刊パセオフラメンコ賞 / (自動的に)最優秀賞受賞者のインタビュー

(No.8) 荒濱早絵 / Se nos rompió el amor desde 茅ヶ崎

★プリメラギター社賞 / ギター弦・CD・DVD

(No.2) Kinta Suzuki / ブレリアデヘレスを逆さまにして弾いてみた。

★マキ コスチューム賞 / マキ コスチューム商品券(30,000円分)

(No.8) 荒濱早絵 / Se nos rompió el amor desde 茅ヶ崎

★ラバリーカ賞 / ラバリーカ無料招待券

(No.14) 相坂直美 / 2020年初めてのスペイン留学で外出できる喜び

ALEGRÍAS in セビージャ!

### 【エントリーされた44名の方】

No.1 徳村真未	No.6 天辰直彦	No.12 吉村優子	No.18 定直慎一郎	No.23 坂本弘輝	No.29 磨伊由佳	No.35 池川寿一	No.41 幸田愛子
No.2 Kinta Suzuki	No.7 山崎耕平	No.13 大山勇実	No.19 内田好美	No.24 中村一郎	No.30 山口麻里子	No.36 土井わかかな	No.42 山田あかり
No.3 Daphne Huang	No.8 荒濱早絵	No.14 相坂直美	No.20 川口美郁菜	No.25 鈴木旗江	No.31 島袋紀子	No.37 後藤晃	No.43 Wei Qi Sarah
Vargas	No.9 今井龍一	No.15 植田由加理	No.21 EL CAYO	No.26 森川拓哉	No.32 林由美子	No.38 本田恵美	Chan
No.4 永田健	No.10 Andy Ido	No.16 大野環	池本佳代	No.27 タマラ	No.33 菊原まり	No.39 Luz Wu	No.44 伊達花菜
No.5 久保田晴菜	No.11 村瀬永子	No.17 上野真登香	No.22 川崎晃子	No.28 尾崎さくら	No.34 東郷恵子	No.40 Hung Yu Wu	

(すべての動画は8 / 31まで特設サイトにてご覧いただけます)

## 入賞者ご紹介!

### No.4 永田 健(優秀賞)



新しい試みて、自由にチャレンジできるのが面白いので応募しました。自粛期間中で戸惑いもあり、ふとこの曲踊ってみたいと思いました。今ではいろいろと見つめ直すいい時間になったと思います。投票して頂いた方々、ありがとうございます。YouTubeに編集したバージョンもあげていますのでよかったらご覧ください。

### No.5 久保田晴菜(優秀賞)



©らんカメラ 芦澤利紀

パワーを与えてくれたのは、セビージャの光と影と空気(風)でした。WEBを通して、普段中々私の踊りを見る機会がない方達にもご覧いただけたことが本当に嬉しかったです。残り3か月ほどの留学生活、コロナで止まってしまった歩みを取り戻し、さらに多くのものを吸収して帰国したいと思います。

### No.35 池川寿一(優秀賞&エンタメ賞)



この度は素晴らしい賞を頂き、ありがとうございます。多彩な作品の中、オリジナルのアイデアを考える難しさがありましたが、フラメンコの奥深さ、面白さをウクレレを弾くことで改めて自分らしい表現を心がけました。主催者ならびに投票して下さった方々、ありがとうございました。

### No.26 森川拓哉(入賞)



©YOSHIKAZU INOUE

stay home中に時間がある時にちょっと普段できない事を時間かけてやってみようという事でピアノでいろんなギタリストのコピーやフラメンコピアノアレンジをして数曲形にしたいなというのがあり、そんな折にお声がけいただいたので丁度目標ができてとても良かったです。

### No.27 タマラ(入賞)



©清水洋子

自分の映像を世に出すというのはかなりの覚悟がいるもの。なので一番出したいもの、ドラントスのピアノフラメンコを選びました。殺風景なスタジオで、無色の蛍光灯の下で踊っている地味な映像に目をとめて頂けたことが嬉しいです。またご視聴くださった方々の感想にフラメンコの力、可能性を感じることが出来ました。

## イスラムの薫りに魅せられて

おめでとうございます! まずは受賞されたお気持ちを。  
ありがとうございます! こんなに素晴らしい賞をいただけるとは思っていなかったの、とにかく驚きと感謝の気持ちでいっぱいです。

早絵さんは東京外国語大学のスペイン舞踊部・カンテ研究会ご出身なのですね。フラメンコを始めたきっかけは?

入学前のオープンキャンパスで初めて見て、女性の踊りの力強さに惹かれました。同時に独特な音楽に魅了されたのです。リズム、アクセントの入り方、音が切れるタイミング、どれもがカッコよかったです!

最初からそこに惹かれる感性がすごいです。それまでの踊りや音楽のご経験は?

習っていたというわけではないですが、小さい頃から踊ったり歌ったりすることは大好きでした。中学では吹奏楽部でトランペットやユーフォニウムをやっていました。

力強さ、というのが早絵さんのひとつのキーワードですね。大学での語学の専攻は?

ウルドゥー語です。イスラム教徒の言葉、アラビア文字を使う言葉です。インド、イスラム文化、アルハンブラ宮殿のタイルの模様、そういったものにずっと惹かれていました。

早絵さんのエキゾチックな雰囲気はそういったところから来るのですね。現在の活動とこれからを教えてください。

一昨年頃から入門レッスンや、Toposというユニットを組んで活動しています。学生時代から3度の留学を経てもっとフラメンコを発信していこうという覚悟ができました。それまではまだまだ、と感じていたので……。

では、この受賞がさらにフラメンコに集中していくきっかけになりますね!

はい。自分自身のフラメンコを探求していくことはもちろん、フラメンコを知らない方にも魅力を知ってもらい、偉大な先輩方が創り上げて来られたフラメンコの世界をさらに盛



# Sae Arahama

©Kyoji Sakurai

り上げていきたい。今回のフェスティバルを機にさらにかんばっていきます!

29歳、年齢以上の落ち着きと風格がある。数年前まで目立った活動はしていなかったが、イスラム文化を愛し続けてきたのと同じく呼吸するようにフラメンコを踊り、積み重ねてきたのだろう。今回の受賞は自然な流れだったといえる。覚悟のその先が楽しみだ。

### No.31 島袋紀子(入賞)



©Beatrix Mexi Molnar

憧れのスペインには、実に多種多様のフラメンコがあり、眼から鱗の毎日でした。フラメンコらしいって、一体誰がそう決めるの? 表現方法、好みは様々。みんなフラメンコが好きだから、この芸術に敬意を表しながら、自分の道を模索している。私も常にそうありたいと願いつつ、今回参加させて頂きました。

### No.32 林由美子(入賞)



©Shin Hori

エントリーしようと決めてから、作品を提出するまでの期間、計画から構想を練り、準備・練習・撮影、短い時間でしたが、おもしろい発見もあったり、たくさん楽しませて頂きました。今後はもっと、動画配信など身近に取り入れてみたいと思う良い機会でもありました。参加させて頂き本当にありがとうございました。

### No.41 幸田愛子(入賞)



©阪本昌代

コロナの中、第一回フラメンコWEBフェスティバルをしてくれて、ありがとうございます。来年もしフェスティバルをしたら、ぜひ出させてください。おうんしてくれて、本当にありがとうございました♡

### No.2 Kinta Suzuki(エンタメ賞)



©Kanki Matsuyama

エンタメ賞、プリメーラギター社賞を頂きました。ご投票頂いた皆様のおかげです、感謝申し上げます。今回、スペイン人が見ても面白い動画を目指しました。プレリアデヘレスのソニクテを出しながら、世界中の誰もが出来ない事をやってみようと思案致しました。これからも色々配信していこうと思います。

### No.38 本田恵美(エンタメ賞)



©佐藤尚久

自粛生活が相当心身に堪え、耐えかねたのが応募のきっかけ、締め切り前夜に音源を作り締め切り日に撮影。深夜ギリギリの駆け込み応募でした。1週間の試行錯誤は大変楽しい時間でした。運営の方々、ご投票いただいた方々、ありがとうございました! 自重や様子見はまだまだ続きますが少しずつ前へ進まなければ!

『Flamenco2030』主催「第1回フラメンコWebフェスティバル」

# 2030年への第一歩!

## 十年後をみつめる助走

井口由美子(パセオ編集部)

### 生まれたての小鹿

『Flamenco2030』主催の「第1回フラメンコWebフェスティバル」(以下、Webフェスと略)が、7月4日の結果発表をもって無事締めくくられた。応募動画数44本、最終投票者数2,083名、初回としては十分な成功だ。

生まれたての小鹿は肉食獣の襲撃から生き残るため誕生直後によろけながらも何とか歩けるようになるという。同じように今回のWebフェスも、コロナ禍のさなかでフラメンコの危機を乗り越えようと、ここに参加した誰もが試行錯誤でもがきながらもやり切った。その手応えが次につながる何よりの収穫だったといえよう。

「誰もが」。これが大事だ。動画作成してエントリーした参加者も、そして運営側のボランティアスタッフも、そして多くの視聴者たちも、それぞれの立場で、コロナを境にいっそう重視されるアートのネットワーク化に対応する手掛かりを得たことは間違いない。

### 二つの悲願

『Flamenco2030』の運営スタッフにとって、Webフェスの実現および未来につながるこの実感こそが何よりうれしいことだった。

『Flamenco2030』はコロナ禍に対応する復興サイトとして、この春の緊急事態宣言の二日前に有志4人で発案、原動力はまさに「フラメンコの危機」だった。直後に『ミルフラ!』運営の堀慎二郎が加わりサイト構築は実現に向けて加速、その後も想いに賛同する仲間が次々と名乗りを上げ20名を超えるスタッフが全世界から集結、決起からわずか1カ月後の5月7日に『Flamenco2030』サイトはスタートした。

コンセプトは「誰でも参加できる公共性」。

このももとのヴィジョンは昨年末のパセオ座談会において「現状を生かしながら、新しい仕組みと新しいチームで、すそ野拡大のために開かれたフェアな場を創りたい」と、都内複数のタブラオ管理人をつとめる西田昌市氏がすでに表明していた。そしてこのヴィジョン実現のための足掛かりとして、二つの大きな柱がここで提案されていた。ひとつは「誰もがアクセスできるフラメンコサイトの開設」。そしてもうひとつは「新たな表彰の機会の創設」。

前者のフラメンコサイトの開設、つまり誰でもどこからでもアクセス可能で、このサイトひとつでフラメンコのすべてが見渡せ、自由に交流できるプラットフォーム的ネットワーク。その充実はフラメンコ普及のためにこれからの時代に欠かせないことだ。そして後者の「新たな表彰の機会」はフラメンコのレベルアップに直結する。賞を増やしアーティストが実績としてプロフィールに書き込めることで、活動の幅が広がる。例えば公共機関に助成金を申請しやすくなり舞台活動の促進にもつながる。それが結果的にすそ野を広げていく役割も果たすだろう。

これら「フラメンコサイト(プラットフォーム)の開設」と「表彰の機会の創設」、二つの構想は、西田管理人そしてパセオフラメンコ編集長の悲願となった。

この二つの悲願が同時に、凶らずもコロナ禍による危機感が勢いをもちスピード実現して形となったものがこの「第1回フラメンコWebフェスティバル」だった。

### 手探りのスタート

5月7日の『Flamenco2030』サイト開設と同時に、Webフェスもサイト上で産声を上げ、参加募集スタート。



Webフェス フライヤー

すべてインターネット上で行われるイベントだが、事務方作業の要はやはり「人」だ。

スタッフは全員が本業を抱えたボランティア。ネットを介して東京を中心に全世界に散らばる。やり取りはFacebookの共有メッセージ上で合議して決めていった。スタッフの関係性は基本フラット。すべてゼロの状態から募集開始し、たくさんのメールを受け付ける段階になると作業上の疑問、質問が浮かび上がってくる。それらはすべてメッセージ上で問い掛けられる。全員が本業も忙しい状況で、ずっとFacebookに張り付いているわけにはいかない。そのメッセージをタイミングよく見かけた者が解る範囲で助言、質問者がそれを受けて自身で結論を出して作業を進めていく。またはできる者がその場で挙手、担当となって責任を負って実行していく。西田管理人が実務の総括的な判断、パセオ編集長が業界通としてのサポートをするかたちで全体を支えながら、奇跡的に自然な流れですべてが推進していった。奇跡的と表現してしまっただが、大量のメールのチェック、返信、動画のチェック、格納、アップロード等相当の仕事量がネットに詳しいスタッフに偏ってしまったことは今後の課題となった。

5月20日には、スタッフのタマラ(バイラオーラ)がWebフェスのフライヤーを作成。大和田いずみ画伯の絵と力強い文字で埋まった鮮やかなチラシに



荒濱早絵 動画作品より

よって、それまで掴みどころの無い感覚の作業が視覚化され手応えのあるものとなり、スタッフたちのモチベーションはここでグッとアップした。

投票サイト作成にあたっては、ネットに詳しい久保田晴菜(パイラオーラ)の的確な提案が採用されシンプルなシステムが実現した。

海外からの問い合わせ、エントリーがあったことは想定外の驚きと喜びだった。6月18日にはシンガポール在住のスタッフ景山綾子が応募方法を英訳サイトに掲載して、一気に国際色を増した。スペイン在住のライター志風恭子は、7月4日の結果発表を受け、44名の出演者に敬意を表し、全作品に対する個々の感想をわずか一日で書き上げ公表した。賞状、証書の作成は、入賞者のこれからの活動の糧となることを願いつつ望月素子と萩森琴美が担当した。また何の実績もないプロジェクトに対し、フラメンコに関わる14もの個人を含む企業が理念に賛同し、スポンサー賞に協力してくれた。

### フェアであること

『Flamenco2030』のキーワードは「フェア」だ。判断が難しい局面があると西田管理人はまず「フェアかどうか」を問うた。それによって常に迅速な軌道修正がなされた。

エントリーや動画を受け付けが進むと、疑問質問は内部作業だけではなく、参加者からの質問に答えたり、動画内

容確認によるエントリーの可否を伝えたりすることが必要になる場面も多くなってきた。例えば「固定カメラで」というルールに明らかに反している作品は理由を述べて撮り直しをお願いすることもあった。ここでも「フェア」ということが判断基準となった。編集という部分で判断が難しい作品もあったが、明らかなルール違反ではないものは採用した。ここで事務局として最も多く参加者に現場対応した関西在住スタッフ萩森琴美の言葉を、スタッフ全員の想いの象徴として挙げる。「発想の豊かさやギリギリの線を狙ってきたチャレンジ精神なども尊重したいという考えもありました。エントリー頂いた作品はすべて愛すべき大切なものです」

今回のルールは、コロナ禍によって人と関われない、外出できないという制限があることを考慮して設けられたものだった。そんな中で入賞こそ逃したものの、エントリー No.18の定直慎一郎氏の作品は固定カメラの撮影動画を編集技術を駆使したエッジの効いたフラメンコに仕上げている、ネットならではのフラメンコの可能性を大いに感じさせた。

次回以降はコロナが落ち着き、動画ならではの自由な発想の作品を募集できることを願いつつ、課題にしたい。

そして今回一番問題となったのは、海外エントリーからの「組織票」「重複投票」だった。先ほども書いた通り、

海外からのエントリーはうれしい誤算ではあったものの、特定のエントリーに相当数の不自然な投票が集中した事実が途中で判明した。事務局が相当時間を費やしてすべてのメールアドレスを厳しくチェックし、フェアな結果を公表するに至った。

フラメンコはユニバーサルなアートだ。スペインに次ぐ第二位のフラメンコ愛好国日本のWebサイトが全世界のプラットフォームになる可能性だってある。しかしながら、国際交流は決してきれいごとではない、ということを実感した。ルールに対するアプローチひとつとっても謙虚に守るか、際どく攻めるか、お国柄によるズレが出てくる。大陸と島国との文化の違いもある。フラメンコを通じた共存、協働は理想だが、その道のりはシビアであることを予測した広い視野が必要だ。

Webフェスの最終結果を見て感じたこと。

初回にして2,000人を超えた投票実績は、ネットという手段が幅広く多くの人々の関心を集め得るという証明となった。そしてネット投票によって、コンクールのように技術偏重になることなく、審査員のカラーに左右されることもなく、それでいながらトータルの実力、つまりテクニック、感性、人気、人柄、日々の発信努力などが結果的にバランスよくジャッジされ得ることも実感した。

フラメンコがアンダルシアの苦難の歴史を背景に生まれたという原点を尊重しつつ、ネット等の新たな発信方法も柔軟に取り入れ、多くの人々に広めていく。この両輪がフラメンコという奥深いアートを伝えていくには欠かせないことだ。コロナによって世界は予測のつかない変動の中にいるが、このWebフェスティバルの成功は、10年後のフラメンコの未来につながるリアルで確実な第一歩となった。

以上、速報を受けてのレポートだが、さらに踏み込んだ総括と今後の展望については、じっくり振り返りながら、次号以降でお伝えしていく。